

第44期（2024年度）
クレバー産業株式会社

環境経営レポート

対象期間：2024年9月1日～2025年8月31日

発行：2025年10月24日



第44期（2024年度）
環境経営レポート

目次

- ・クレバー産業のあゆみ ----- P3
- ・経営理念/環境経営方針----- P4
- ・組織の概要 ----- P5
- ・環境管理組織図 ----- P6
- ・主な環境負荷の実績/経営指針書の目標・評価 ----- P7
- ・環境経営計画と取り組み結果とその評価、次年度の取り組み -- P9
 - ▷電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減----- P10
 - ▷自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減 ----- P12
 - ▷一般廃棄物の削減(紙類) ----- P13
 - ▷廃プラの削減----- P14
 - ▷水道水の削減 ----- P15
 - ▷推移 ----- P16
- ・環境目標/実績 ----- P17
- ・社内の環境活動の紹介 ----- P18
- ・環境活動の受賞 ----- P19
- ・防災訓練----- P20
- ・リスクへの取り組み ----- P21
- ・設備紹介----- P22
- ・代表者による全体の評価と見直し ----- P23

クレバー産業のあゆみ

- 1978年 電子機器部品組み立てを主とする事業にて創業
- 1979年 試作及び量産品プリント配線板製造開始
- 1981年 法人設立。クレバー産業株式会社発足
プリント配線板製造事業に完全移行
- 1984年 大阪府東大阪市宝町に本社工場完成。各種NC機器導入
- 1989年 資本金1,000万円に増資
- 1999年 加工部門を専業としルーター・Vカット加工設備を増強
- 2008年 検査設備(画像処理測長機)、加工データ作成機(CAM)を増強
- 2013年 樹脂板、金属板事業拡大のため生産設備を増強
- 2014年 エコアクション21をモデルに環境経営を開始
- 2015年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」省エネ努力賞を受賞

2016年 エコアクション21認証を取得

2017年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」努力賞を受賞

大阪ものづくり優良企業賞を受賞
「COOL CHOICE」に賛同



2020年 事業継続強化計画 に認定

2021年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」努力賞を受賞

2022年 健康企業宣言「銀」 に認定
同友エコ奨励賞を受賞



2023年 健康経営優良法人2023 に認定
同友エコピュラー賞を受賞
同友エコ奨励賞を受賞

2024年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」優秀賞を受賞

2025年 なにわエコ会議にて大賞を受賞 授賞式へ出席
2024年度エコフェス プロフェッショナル賞を受賞 表彰式へ出席

経営理念 / 環境経営方針

経営理念

私たちは、独自の技術を追求しつづけ、良いものを作ります。

私たちは、互いに協力し信頼を深め、品性を磨きます。

私たちは、関わる全ての人の心を豊かにする会社になります。

環境経営方針

当社は日本有数の中小企業密集地・東大阪の一角にあります。

河内平野の東、生駒山の麓に位置し、工場や民家が密集した地域でありながら、生駒山の豊かな自然にも恵まれています。

当社は薄板切削事業を通じて、自然環境や地域社会との調和を目指し、自主的かつ積極的に環境改善活動を全社員で継続的に展開します。

- 1 環境関連法規と当社の約束事項を遵守します
- 2 事業活動全般において二酸化炭素排出量の削減に取り組みます
- 3 省資源・廃棄物削減・リサイクルを推進します
- 4 節水に取り組みます
- 5 経営指針書に基づく品質・製造・環境目標の達成に努めます
- 6 環境に配慮したものづくりに努めます

制定日：2015年1月5日

改訂日：2020年6月26日

代表取締役 辰巳文吾

組織の概要

事業者名

クレバー産業株式会社

代表者

代表取締役 辰巳 文吾

所在地

本社 大阪府東大阪市宝町15-10

環境管理責任者

小山 雅之

環境事務局

川上 寿夫 大谷 幸馬

連絡先

TEL:072-984-4627
FAX:072-981-6536
E-mail:cleveryo@basil.ocn.ne.jp
URL:http://www.clever-jp.com

事業内容

プリント配線基板及び樹脂板・薄板の製造、加工、販売
主要製品：プリント配線板

事業年度

9月1日～翌年8月31日

資本金

1,000万円

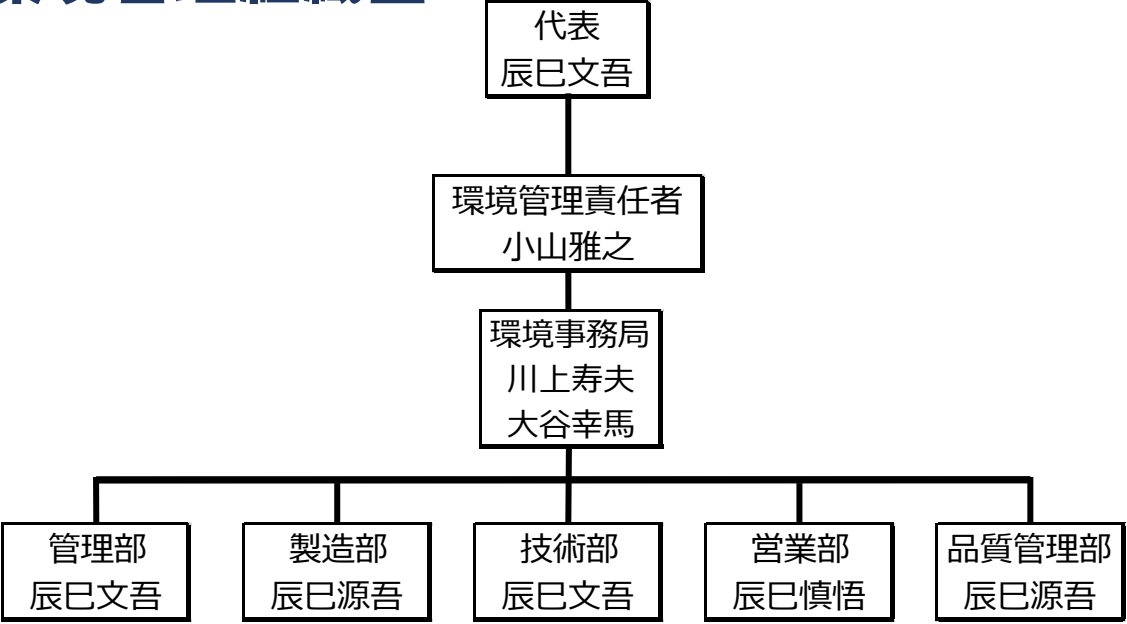
生産平米

1815㎡（2024年実績）

	本 社
従業員数	10人
延べ床面積	322㎡



環境管理組織図



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none">・環境経営に関する統括責任・環境経営システムに実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備・環境管理責任者を任命・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・環境目標、環境活動計画書を承認・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの構築、実施、管理・環境関連法規等の取りまとめ表を承認・環境目標、環境活動計画書を確認・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none">・環境活動責任者の補佐、環境会議の事務局・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施・環境目標、環境活動計画書の原案の作成・環境活動の実績集計・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施・環境関連の外部コミュニケーション窓口・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地方事務局への送付）・環境活動計画の審議・環境活動実績の確認、評価。
各部門	<ul style="list-style-type: none">・自部門における環境方針の周知・自部門の従業員に対する教育訓練の実施・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施・自部門に想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成、試行、訓練を実施、記録の作成・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績 経営指針書の目標・評価

主な環境負荷の実績

項目	単位	42期	43期	44期
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	56,960	43,463	12,902
Scope1(化石燃料)	kg-CO2	15,559	12,918	12,902
Scope2(電力)	kg-CO2	41,401	30,545	0
電力(kWh)	kWh	90,395	61,459	45,961
廃棄物廃出量	kg	6,390	3,625	2,675
一般廃棄物排出量	kg	240	50	0
産業廃棄物排出量	kg	6,150	3,575	2,675
水使用量	m ³	74	71	53

昨年4月に電気プランを再エネプランへと変更したため44期のkg-CO2の数値は0となっており、データ取りの項目はkWhへ変更となっております。そのため、Scope2(電力)kg-CO2の44期の欄は数値が0となっています。

経営指針書の目標・評価

環境

2024年	ツール寿命管理と各自担当活動でSDGsに貢献する。	<p>今期は電気プランの変更により、二酸化炭素排出量が実質0となったため「7.エネルギーをみんなにそしてグリーンに」というSDGsの目標に対して大きく貢献することが出来た。</p> <p>また、前期より継続しているパートナー制をさらに先へと進めることができ、それぞれが各自担当活動に取り組むのはもちろんのこと、自分の担当以外の活動に協力するケースや、環境委員への相談なども増え、会社全体として活動が円滑に進むようになってきた。SDGsの17の目標のひとつ「17.パートナーシップで目標を達成しよう」という目標にまた一歩近づいたと実感している。</p> <p>ツール寿命の管理について検証を行ったが、今期は仕事量により大きな成果は得られなかった。</p> <p>来期もこのパートナー制の良さを引き継ぎつつ、よりよい成果を上げられるようにしたい。</p>
2025年	担当者同士による共同活動で更なる省エネ対策に励む	<p>本年度は、個々の意識や取り組みにおいて一定の成果が見られましたが、委員会全体としての活動水準は前年と大きな変化がありませんでした。</p> <p>個人の活動が委員会の目的に関連づく場面も増えた一方で、依然として個人活動の延長線上にとどまる傾向も見受けられました。勤務形態や業務形態の変化に伴い、従来のような進捗が難しく、スケジュール管理面での課題も明らかになりました。</p> <p>来期においては、これらの課題を踏まえ、活動しやすい環境の整備とスケジュール管理の徹底を図り、より組織的かつ効果的な取り組みを目指します。</p>

経営指針書の目標・評価

工場（旧：品質・製造）

2024年 品質

2024年	作業方法・手順を再検証し、安定した品質環境を維持する	<p>今期は4M(人・機械・材料・方法)の中よりMethod(方法)をメインテーマに上げ、取り組みを行ってきた。</p> <p>施策としては、作業方法及び作業ルールの再確認及び重要性を再度各作業者に理解して貰い、個々の作業を見直す機会とし、安定した品質を維持出来るように取り組んできた。</p> <p>成果としては、各作業者危険性のある独自の作業法はなく、しっかりと作業ルールを遵守出来ていることを確認できた。作業要領書の振り返りについては、一部改訂が必要な内容の書類があり、現状に沿った作業に改訂することが出来た。</p> <p>作業面及び管理面ともに良い結果が得られたと判断する。</p>
-------	----------------------------	--

2024年 製造

2024年	各部門との連携を図り、作業品質を確立する	<p>今期は各部門との連携テーマに施策を決定し、取り組みを行った。</p> <p>技術部との連携施策は、技術案件を製造部として展開し、作業方法の確立及び生産者の追求をテーマに取り組みを行った。</p> <p>0.6mm細径の条件出し及び寿命検証に関しては、検証から結論出しまでの作業を各自が役割を果たし、テーマに対して明確な結論を出すことができた。他の案件に関しては、新たな知識習得という意味で各々のレベルアップになった。</p> <p>環境部との連携施策は、ツール寿命の追求と管理のテーマで取り組みを行った。</p> <p>前年の強みを作るテーマでの反省点を活かし、1月後半には活動スケジュールを立て、目標達成に向けて早々に活動を進めることが出来た。但し、最終的な成果として、内部的には一定の評価出来る結果を得られたと思うが、外部への発信としての結論が曖昧になってしまった事は反省点として捉え、来期に繋げなければならない。</p>
-------	----------------------	--

2025年 工場

2025年	製造、技術部門のそれぞれが方針施策に沿った課題に取り組みゴールを目指す。	<p>今期は、方針作成から見直し、製造と品質をまとめ工場方針とし、新たな数字基準を設けコスト意識を促した。</p> <p>部内課題解決のボトルネック解消、スピード向上の為、技術部との連携強化及びリーダーの権限を拡大した事により、取り組みがスムーズに進むようになった。</p> <p>また、各作業者の多能工化を実戦段階まで進め、継続的な「強み」づくりを始めた。</p>
-------	--------------------------------------	---

昨年まで品質と製造で分かれていましたが、2025年から工場方針として統合されました。

環境経営計画の取り組みとその評価、 次年度の取り組み計画

取り組み活動

関連するSDGsの項目

電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減

P10～11



自動車による二酸化炭素排出量の削減

P12



一般廃棄物の削減（紙類）

P13



廃プラの削減

P14



水道水の削減

P15



削減量の推移

P16

・2016年(基準年)から2024年までの数値の推移

環境経営計画の取り組みとその評価、次年度の取り組み計画

電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減



担当者のコメント（1年の振り返り、総括）

電気代は高額なものと思っていましたが1つ1つとってみれば、1時間の単価は安いものでした。そのちょっとしたことがつもりに積もって、十数万円の金額になっています。1人1人の心がけで少しでも安くなるのだと思いました。

次年度から

蛍光灯、コンプレッサー、エアコン、パソコンの電気代を調べてきましたが、他にもまだ調べきれていないものがあるので、それらを調べてから何か削減出来るものがあるかどうか調べたい



小話：再生可能エネルギーの“光と影”

当社でも昨年、再生可能エネルギープランへの変更をしました。再生可能エネルギーは、CO₂削減やエネルギー自給の面で大きな期待が寄せられていますが、一方で課題も見え隠れします。例えば、天候に左右されやすく安定供給が難しいこと、発電施設の設置に広大な土地や自然環境の配慮が必要なこと、また設備の寿命や廃棄に関するコストも無視できません。私たちが目指す持続可能な社会には、単に“導入すれば良い”という発想ではなく、こうした現実的な課題を理解し、解決策を考える視点が欠かせません。



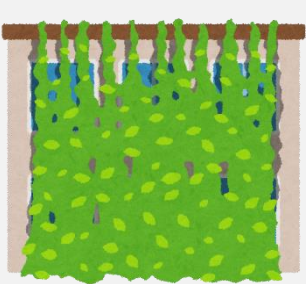
電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減

担当者のコメント（緑を増やす）

前期の春までは球根などを植えて花を咲かせていた。後期は真夏日が多く種や球根を植えてもすぐに枯れると思い中断していた。

次年度から

後期になってから想像以上の暑さで花を植えることを断念することもあった。来期は気温の様子も見ながらいろんな花を咲かせていきたい。



担当者のコメント（空調効率の向上）

最初の頃は一人で活動していたこともあり具体的な成果があまり出なかった。4月以降は環境委員にも協力してもらい、コンプレッサー室の温度管理や、空調管理に具体的な策を取り組めるようになった。

来期は暖房について考えていきたい。換気扇を切る、夏場と逆のことをしてみるとどうなるのか？などいろんな策で挑戦していきたい。

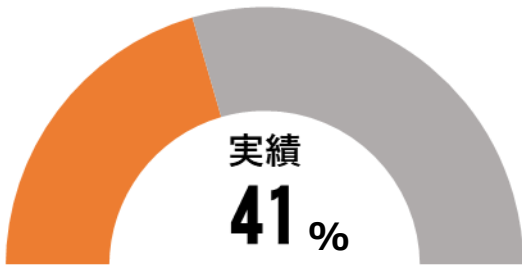
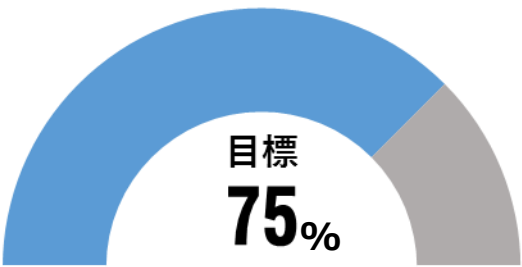
総括

- ・夏場の冷房やコンプレッサー室の温度管理など環境委員に協力を仰ぎつつ、具体的な策を実施できた。

次年度から

- ・来期は環境委員と相談しつつ、さらに空調効率を上げられるようにしたい。また冷房だけでなく冬場の暖房についても取り組んでいきたい。

基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：84635kWh	→ 実績：45961kWh	○
目標：基準年比75%	→ 実績：基準年比41%	
取り組み計画		達成状況
・空調効率の向上		○
・作業時間の短縮で電力を削減する		○
・緑を増やす（緑のカーテンなど）		○

※基準年度 2016年度

自動車による二酸化炭素排出量の削減



担当者のコメント

取り組みそのものは継続出来ていたが指標は出尽くしている感が強かった。

総括

目標の方向転換のきっかけになる1年となった。今後の納品時の使用車両のバリエーションが大きく変わったので新しい取り組みにシフトする機会になった。



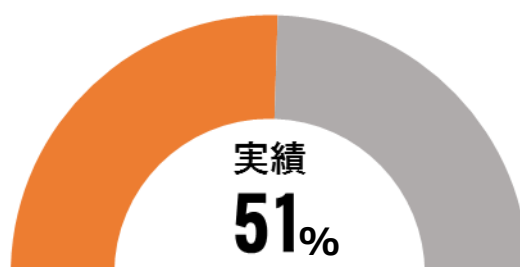
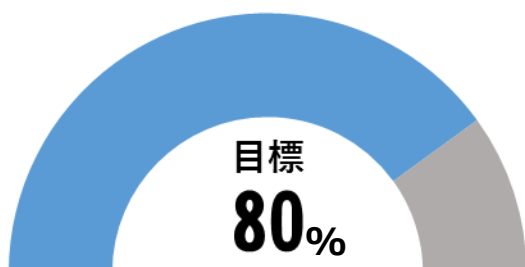
次年度から

納品の主力車両がディーゼル車からハイブリッド車に変わったのでそれに伴った新しい取り組みを始める。



※来期からはハイブリッド車の記録を取るので、数値目標と実績が変わります。

基準年度に対しての目標と実績

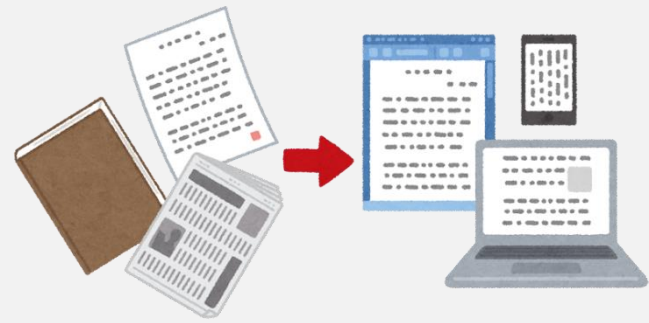


数値目標と実績		達成状況
目標：12902kg-CO2	→ 実績：8154kg-CO2	○
目標：基準年比80%	→ 実績：基準年比51%	
取り組み計画		達成状況
・エコドライブ等の運転方法の配慮		○
・駐車による移動ロスを減らす		○
・燃費確認		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント

電子化の取り組みを進めたことで、納品書や請求書などの郵送業務が大幅に削減できました。封入・切手貼付・発送確認などの作業負担が減り、郵送トラブルもなくなり効率化を実感しました。また印刷枚数を毎月記録し、紙使用量の推移を把握しながら削減に取り組みました。紙のリサイズ印刷など小さな工夫も定着し、環境への意識が高まった1年でした。



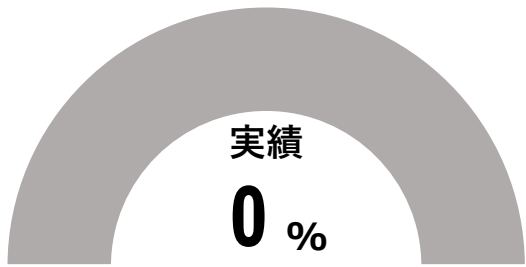
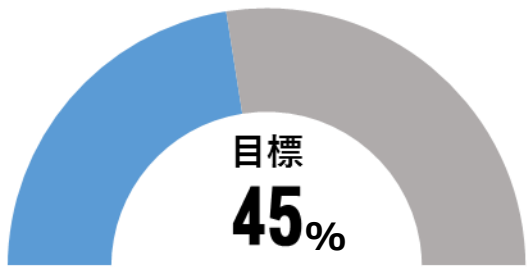
総括

取引先の約9割を電子送付に切り替え、紙資源・封筒・郵送コストを削減。印刷記録の継続により、紙使用量の見直しにも繋がり、業務の効率化と環境負荷軽減の両立を実現しました。

次年度から

引き続き電子化を推進しつつ、紙対応が必要な取引先には臨機応変に対応。月次記録をもとに削減効果の見える化を進め、社内共有を行うことで全体としての環境意識を高めていきます。

基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：221kg	→ 実績：0kg	○
目標：基準年比45%	→ 実績：基準年比0%	
取り組み計画		達成状況
・梱包材、不要郵便物の再利用		○
・ペーパーレス化の推進		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント（3R活動の推進）

前半は3R活動で何をするか考えていた。社内加工済みのCFRPの材料が多くあるので、それを使って、テスト加工や寿命テストなどに使用し、意味のある材料の使い方が出来た。

次年度から

CFRPの端材を使った物作りや役に立つ物を作っていこうと思う。端材の廃棄の量を減らせれば3R活動の推進になると考えている。



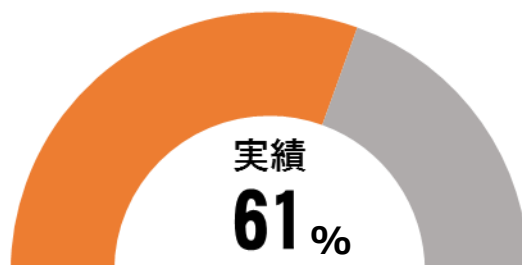
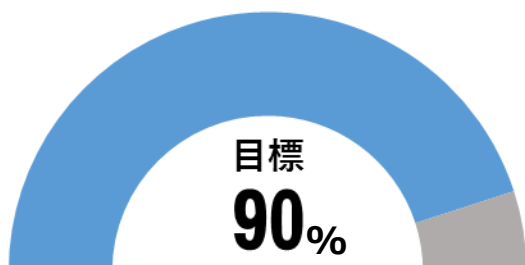
担当者のコメント（不良の削減）

現状の勤務体制で環境活動に割り当てられる時間が少なかったため、最低限の活動しか出来なかった。不良削減については、不良数が昨年より減少したので数字的には良い結果であった。

次年度から

与えられた担当の環境活動をしっかり理解し、活動の目的を明確にした上で具体的な取り組みを決めていきたい。

基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：5280kg	→ 実績：2675kg	○
目標：基準年比90%	→ 実績：基準年比46%	
取り組み計画		達成状況
・不良の削減（是正・予防に努める）		○
・3R活動の推進		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント

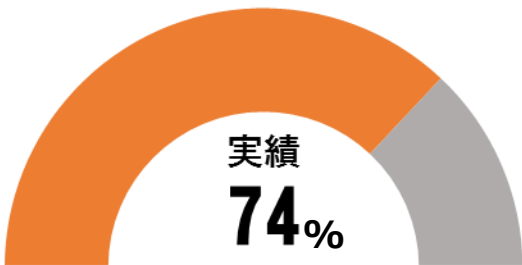
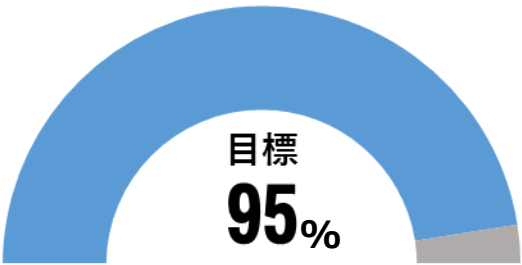
エアコン使用時に、屋外の裏手にバケツを設置して排水を溜め、その水を花の水やりに活用したことも、日々の節水に繋がったと思います。小さな工夫ではありますが、こうした取り組みを積み重ねることで、水の使用量を少しずつ減らすことができました。



次年度から

- ・来期は今期の活動を盛り込みつつ、さらに意識を高め、もうひとつ数字を下げることを目標にしたいと考えています。

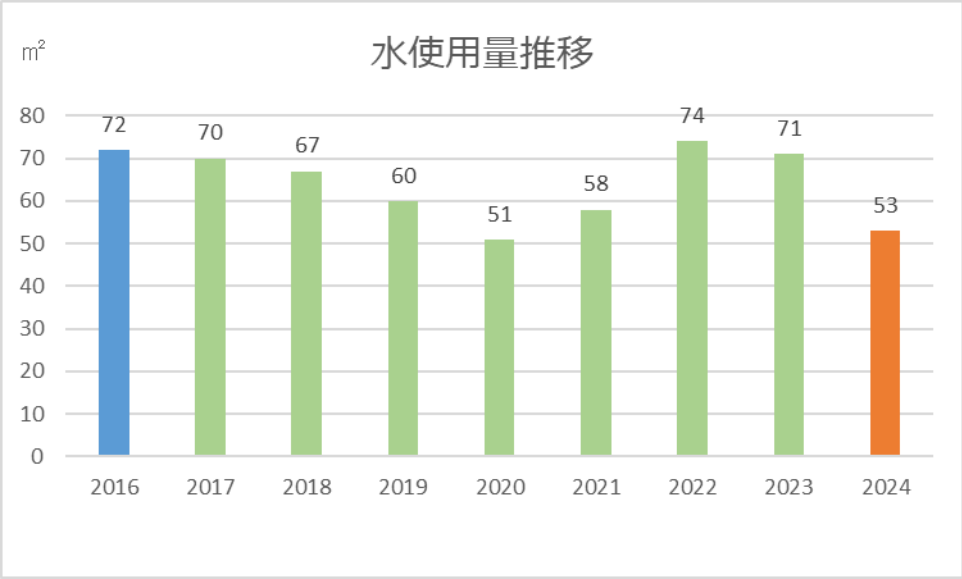
基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：68㎡	→ 実績：53㎡	○
目標：基準年比95%	→ 実績：基準年比74%	
取り組み計画		達成状況
・水を使用する際は節水を心掛ける		○
・水道配管の漏水を定期的に点検する		○

※基準年度 2016年度

削減量の推移



環境目標・実績

環境目標・実績

項目	年度	基準値	2024年			2025年	2026年
		基準年	目標	実績	達成状況	目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kWh	112,847	84,635	45961	○	48965	45701
電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減	基準年比	2016年	75%	54%		75%	70%
ルーター稼働率原単位※	-	29,901	25,958	9530	○	電気プラン変更により 数値が0	
(kg-CO2/ルーター稼働率)	基準年比	2016年	80%	29%			
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	16,127	12,902	8154	○	12095	11289
	基準年比	2016年	80%	51%		75%	70%
燃費評価	km/L	8.45	9.38	7.52	○	8.53	8.61
(km/L)	基準年比	2017年	11%増	20%減		1%増	2%増
一般廃棄物の削減(紙類)	kg	490	221	0	○	216	211
	基準年比	2016年	45%	0%		44%	43%
廃プラの削減	kg	5,866	5,280	2675	○	4986	4693
	基準年比	-	90%	46%		85%	80%
水道水の削減	m ³	72	68	53	○	65	61%
	基準年比	2016年	95%	74%		90%	85%

項目		年度	基準値	2024年
			基準年	実績
ルーター稼働率原単位	kWh		1,898	885
(kWh/%稼働率)	基準年比	2016年	47%	

※電気プランを再エネプランに変更したので従来の稼働率原単位が出なくなりました。
そのため、新たな算出方法で表を下に作っています。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物資・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ）
騒音・振動規制法	空圧機
フロン排出抑制法	空圧機用エアドライヤ、空調機
健康増進法	屋内禁煙
顧客要求事項	化学物質管理、顧客の監査、RoHS指令対応、納期厳守

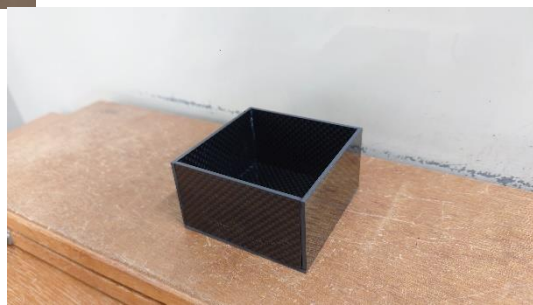
環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されました。
なお、違反、訴訟等はこれまでありませんでした。

社内の環境活動の紹介

薄板加工への移行に伴う外枠の再利用と5Sの推進



←CFRPの端材(加工した際の外枠)を利用した用具入れ



当社ではこれまで基板加工を主軸としていましたが、前年から今年にかけて、薄板加工が主流となってきました。この工程転換により、これまであまり発生しなかった「外枠の余り」が新たに生じるようになりました。

小型製品の加工時には外枠を再利用できる場合もありますが、面付けの都合上、必要な取り数を確保できず、どうしても使い切れない外枠が発生していました。そこで、これらの外枠を単に廃棄するのではなく、**作業用の用具入れとして再加工・リサイクル**する取り組みを実施しました。

この取り組みにより、これまで乱雑になりがちだった用具類の整理が進み、「これは何用？」「〇〇はどこにいった？」といった小さなトラブルも解消。作業者全員が自然に“戻す習慣”を身につけ、**3R（リデュース・リユース・リサイクル）**だけでなく、**5S活動の推進**にもつながっています。

環境委員の視点からも、**資源の有効活用と職場環境の改善を両立した非常に良い取り組み**だと感じています。

環境活動での受賞

なにわエコ会議、大賞 受賞

前期(43期)では「なにわエコ会議」にて、優秀賞を受賞させていただきましたが、ありがたいことに今期も二つの賞を受賞することが出来ました。まずは前期でも参加させていただいた「なにわエコ会議」、以前は優秀賞でしたが、今年は大賞を受賞することが出来ました。

毎年、たくさんの企業さんが様々な活動に取り組み挑まれている「なにわエコ会議」で今期の活動も評価していただいたのは、とても嬉しく思います。昨年のような事例発表は今回ありませんでしたが、大賞を受賞できた嬉しさと同じくらい緊張感もありました。



↑ 受賞中の様子



エコフェス、プロフェッショナル賞 受賞

もうひとつはエコフェスプロフェッショナル賞です。こちらは大阪府中小企業同友会の主催するもので、当社は昨年ポピュラー賞を受賞しました。今年はプロフェッショナル賞ということで昨年よりもグレードアップした賞を頂けたことは大変嬉しく思います。授賞式では同友会の企業の社長の面々も顔を並べ、参加した社員も大変緊張しておりました。しかし滅多にこういう場に立ってコメントすることもないため、貴重な経験になりました。



↑ 表彰状と記念品

これからも当社の活動を知っていただき、更なる賞を受賞出来るよう、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

防災訓練

昨年は各現場に赴き、地震が起きた際の行動についての意見交換を行いました。今年はそれらを踏まえ、実践的な訓練を実施しました。

社内での配置を普段の業務に近い形にし、実際に地震が発生したと想定して社外へ避難を行いました。窓や扉を開けながら避難したり、出入口を確保するなど、各々がしっかりと地震を想定した訓練を実施出来ていました。また実際の避難訓練のあと、それぞれの行動を振り返り、普段の仕事場で各自がどこに身を隠すなど今後決めておいたり、避難できるスペースを確保するなど当社としての課題も見つかりました。また訓練中、声を出しながら避難できたのは一人だけだったため、他の社員の皆さんも同じ行動がとれるように、良いところは真似をして、悪かったところ、及ばずだったところは改善して行くことが大切だと実感しました。

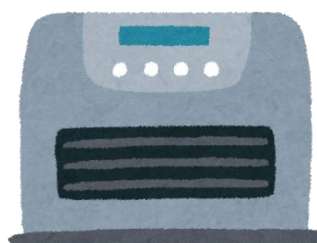
昨年よりも良い内容にはなったと思いますが、環境委員としてもまだまだ改善の余地があると実感した避難訓練になりました。



他に見つかった課題

- ・ヘルメットの準備の有無
- ・機械の復旧はどうするのか？
- ・一部機械稼働中、緊急の社内放送が聞き取りづらかった。
- ・冬場の際、ストーブの電源について

これらを踏まえ、機械メーカーに復旧方法の確認や、ヘルメット等の必要品の再考、そして防災についての知識をつけていくことが必要なことだと実感しました。



リスク管理への取り組み

緊急事態 試行・訓練

(報告)	承認	作成
辰巳文	小山	大谷
社長	環境管理責任者	環境事務局

作成日：2024年12月02日

日 時	2024年11月29日 午後1時00分～45分間
試行・訓練の内容	<p>内容：南海トラフ地震を想定した対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の業務中に近い配置で地震が発生したと想定し、実際に非難した。 ・各自がとった行動を振り返り、現状確認、課題を確認した。 <p>参加者 辰巳慎・武田・村田・川上・小山・渡部・藤原・大谷</p>
担当部署 責任者	環境管理責任者
試行・訓練結果の評価	<p>普段の仕事場での地震を想定した訓練ということで、各自がどこへ身を隠すかを迷う人などもいて、今後決めておいたり、避難するスペースを確保するなど決めるといいと感じた積極的に声を出す人や窓を素早く開けてもしもの時に避難経路を確保するなど、かなり良い訓練ができたうえ、問題点も浮き上がってきた。</p>
手順書変更	<p>手順書の変更の必要性： <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無 （該当項目を■）</p>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・外に避難した際に集まる場所の確認 ・機械メーカーに機械の復旧方法を確認 ・ヘルメットなど必要品の再考 ・9号機稼働中、放送が聞き取りづらい。

設備紹介

◇NCルーター機



・2軸機×5台

・4軸機×2台

[碌々産業製]

加工可能寸法 最大 520×600mm

特殊大判加工 最大 1000×600mm

◇NCVカット機



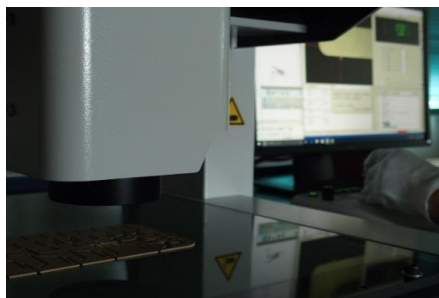
・2軸機×2台

[ショーダテクトロン製]

加工可能寸法 最大 450×450mm

加工可能板厚 0.4～2.4mm

◇画像処理測長機



・2台

[ステラコーポレーション製] ×1台

[ミットヨ製] ×1台

測長可能寸法 最大 610×610mm

◇端子面取り機



・1台

[ショーダテクトロン製]

面取り角、深さ 可変式

加工可能面取り角度 20～45°

代表者による全体の評価と見直し・指示

[環境経営方針]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

経営指針書に基づく品質・製造・環境目標の達成に努めます。
この項目、いろいろ挑戦してほしい。

[目標・環境経営計画]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

明確な年度方針と目標(ゴール)設定で更に突っ込んだ活動を期待します。

[実施体制・その他]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

推しの「チーム体制」がどのような時に機能するかを議論して
効果を発揮させてほしい。

[総括]

定期的な成果報告が幾つか出てくるようになってきたのは
良い傾向です。相当の努力で到達出来る目標に向けた
取り組みから本当の自分たちらしさ・当社らしさを育てて
ください。

実施日：2025年11月19日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



施策から小ロットまで薄板加工のお悩みを解決！

クレバー産業株式会社

〒579-8025

大阪府東大阪市宝町15-10

TEL:072-984-4627 FAX:072-981-6536

E-mail:cleveryo@basil.ocn.ne.jp

URL:<http://www.clever-jp.com>